

病理学 担当講座（分野）：病理学講座（病態解析学分野）

第2学年 後期

後期 講義
19.5時間

一般目標（講義・演習）

人体の疾病に関する病理学的概念と原因、病態およびこれらと関連ある全身性疾患などを講義や示説などによって教授し、臨床歯科医学の基本的関連を総合的に修得させる。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
10月23日(水) 1限	武田泰典教授	病理学概論、病因論 病理学概念と内容、疾病の原因について理解する。 病因（内因と外因）について理解する。	1. 医学における病理学の位置づけを説明できる。 2. 病理学はどんな学術分野かを説明できる。 3. 健康とはなにかを説明できる。 4. 疾病とはなにかを説明できる。 5. 内因について説明できる。 6. 外因について説明できる。 7. 医原病について説明できる。
10月30日(水) 1限	武田泰典教授	循環障害（1） 循環血液量の異常による局所的循環障害を理解する。	1. 虚血の定義、原因、結果などを説明できる。 2. 充血について、とくに炎症との関連を説明できる。 3. うっ血の定義、原因、転帰を説明できる。 4. 出血の原因と転帰、止血機構などを説明できる。
11月6日(水) 1限	武田泰典教授	循環障害（2） 閉塞性の局所的循環障害を理解する。 全身性の循環障害を臨床との関わりから理解する。	1. 血栓症の定義、原因、転帰などを説明できる。 2. 塞栓症の定義、原因、転帰を説明できる。 3. 梗塞の定義、原因、転帰を説明できる。 4. 高血圧症の定義、原因、諸疾患との関連を説明できる。 5. ショックの原因と転帰を説明できる。 6. 心不全の原因を説明できる。 7. 脱水症の原因と転帰を説明できる。
11月13日(水) 2限	三上俊成講師	炎症（1） 炎症の定義、炎症細胞とメディエーター、急性炎症 炎症の概念を理解する。	1. 炎症の定義を説明できる。 2. 炎症の臨床的徴候について説明できる。 3. 炎症に関わる細胞とメディエーターを挙げ、その役割を説明できる。 4. 急性炎症の基本的組織変化を説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
11月20日(水) 2限	三上俊成講師	炎症（２） 慢性炎症、炎症の転帰、 炎症の名称と分類 炎症を病理学的に分類し、それらの特徴を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 慢性炎症の基本的組織変化を説明できる。 炎症を経過、組織像、発生原因から分類できる。 滲出性炎を分類し、それらの特徴を説明できる。 肉芽腫性炎の特徴を理解し、それらについて説明できる。
11月27日(水) 2限	三上俊成講師	免疫異常による疾患 免疫の概念と免疫反応による組織障害を理解する。 免疫の異常によって起こる疾患を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 免疫の概念を説明できる。 免疫反応による組織障害（アレルギー）を説明できる。 自己免疫疾患を挙げ、それらについて病理学的に説明できる。 免疫不全症候群を説明できる。 移植と拒絶反応について説明できる。
12月4日(水) 1限	武田泰典教授	先天異常と奇形 原因と成立機序、分類 先天異常と奇形の原因と成立機序を理解する。 分類（口腔領域の発育異常を含む） 先天異常を分類し、口腔領域の発育異常を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 先天異常の原因を挙げ、遺伝的要因と環境的要因に区別できる。 遺伝的要因について、染色体レベルの異常と遺伝子レベルの変異を説明できる。 環境的要因の中で遺伝子に作用するものと胎児に作用するものを説明できる。 奇形の成立機序を説明できる。 奇形を分類し、説明できる。 口腔領域の発育以上の種類と成立機序を説明できる。
12月11日(水) 1限	武田泰典教授	細胞傷害と物質代謝異常 種々の物質代謝障害と、それらの関連諸疾患を理解する。 萎縮、壊死、全身死について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> タンパク質変性の種類と関連諸疾患を説明できる。 脂肪変性と糖原変性の種類を説明できる。 無機質の代謝異常の種類を説明できる。色素変性の種類と関連諸疾患を説明できる。 萎縮の定義と種類を説明できる。 壊死の原因、種類、転帰を説明できる。 全身死における死後変化を説明できる。 死の判定とその問題点について考える。
12月18日(水) 2限	三上俊成講師	増殖と修復（１） 病的侵襲に対する生体の能動的な変化を理解する。 組織欠損の修復や異物の侵入に対する生体の反応を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 細胞周期を各期に分けることができる。 細胞の増殖を制御する因子を挙げることができる。 肥大と増生（過形成）を説明し、具体例を挙げることができる。 化生を説明し、具体例を挙げることができる。 再生を説明し、具体例を挙げることができる。

月 日	担当者	ユニット名 一般目標	到達目標
1月8日(水) 1限	三上俊成講師	増殖と修復(2) 組織欠損の修復や異物の侵入に対する生体の反応を理解する。 腫瘍総論(1) 腫瘍の形態と分類 腫瘍の定義を理解し、反応性増殖との違いを理解する。	1. 肉芽組織の機能と構成成分を説明できる。 2. 皮膚ならびに粘膜の創傷治癒を説明できる。 3. 骨折の治癒を説明できる。 4. 生体内異物の処理を説明できる。 5. 腫瘍の定義を説明できる。 6. 腫瘍性増殖と反応性増殖との基本的な違いを説明できる。 7. 腫瘍の形態と組織発生を説明できる。
1月16日(木) 1限	三上俊成講師	腫瘍総論(2) 腫瘍の発生と疫学 腫瘍発生の原因と機序を理解する。腫瘍の臨床病理学的特徴を理解する。	1. 良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴を説明できる。 2. 腫瘍細胞の分化度と異型性を説明できる。 3. 腫瘍の発育・進展様式を説明できる。 4. 腫瘍の発生要因を説明できる。 5. 多段階発癌機構を説明できる。 6. 癌遺伝子と癌抑制遺伝子を説明できる。 7. 腫瘍の臨床病理学的特徴を説明できる。
1月16日(木) 2限	武田泰典教授	病理総論と歯科臨床 歯科臨床における診断と治療の根拠について炎症を中心に病理総論的に理解する。	1. 炎症の臨床症状を説明できる。 2. 歯科臨床における炎症性病変の代表的疾患を説明できる。 3. 炎症性病変の治療の原則を病理学的に説明できる。
1月29日(水) 1限	武田泰典教授 三上俊成講師	まとめ 病理学総論の重要事項を整理し理解する。	1. 病理学総論で学んだポイントを説明できる。

教科書・参考書 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

書名	著者氏名	発行所	発行年
教 スタンダード病理学改訂新版	下野正基ほか編	学建書院	2005年

成績評価方法

定期試験によって評価する。

オフィスアワー

氏名	方式	曜日	時間帯	備考
武田泰典	B-i	月～金		
三上俊成	〃	〃		